

# 気合いの入った化学の授業

—地方の公立進学校では—

藤田 賢一

## 最初の化学の授業

昭和56年4月に愛知県の時習館高校に入学し、その喜びもさめぬ4月の最初の化学の授業を今でも鮮明に記憶している。化学担当の先生は加藤正彦先生といい時習館高校20年目のベテラン教諭であった。先生は授業開始のかなり前に教室の中に入ってこられ緊張している生徒達に対し次のようにいわれた。「さて皆さん！ワタクシ化学の先生は一割増しの授業を行ないたいのです。5分早く始めて5分遅く終える。1年間でかなりの時間になります。どうか皆さん協力して下さい！」この突然のアナウンスにわれわれは圧倒され教室の中は静まり返り、そして鐘が鳴る前から授業は始まった。

最初の話は周期表であった。加藤先生は20番元素まですべて覚えるようにいわれたが、このときである。先生は水素から20番カルシウムまで一息に、実にスピーディーに元素名をいわれた。この元気のよい周期表を聞きクラス全員が、「オー!!」と声をあげて驚いてしまったが、しかし先生は何もなかったかのように「ねえ、みんなどうしたの？」といわれ、次に1族、2族、ハロゲン、希ガスを縦に一息に読み上げられた。これらをすべて覚えるようにといわれたときは余りに量が膨大なため、一瞬私達は戸惑った。しかしこの加藤先生のリズムカルな周期表に魅了され何度も先生の真似をしているうちに自然に周期表を覚えてしまい、さらに、覚えて何も見ずにスピーディーに周期表をいえるようになることで化学を一層好きになった。

## 気合いの入った楽しい授業

加藤先生は常に元気よく、また先生の毎時間の

授業にはいつも気合いが入っていた。放課中に教室に入れ、「皆さん！、質問はありませんか。」と生徒達に尋ね、そして授業開始の挨拶では生徒の号令と同時に「さあ、一時間頑張りましょう!!」といわれ元気よく授業が始まった。ボーアの電子模型を黒板に書くときは「ポチポチポチ…」といながら電子を一つずつ黒板に書き、些か面白い表現を使うことで一層生徒の興味を引きつけ、化学の授業は楽しく進行した。そして一つ教える度に「みんな落ちこぼれてないよね？」と生徒の理解を確認しながら授業を進め、また生徒に指名してその生徒が答えられないときには、「化学の先生は分からない子にはスッポンのように食いついて、食いついたら離れない！」といながら、生徒が完全に理解するまで教えて下さった。いうまでもなくほかの先生方よりも熱心であったので試験のクラス平均は学年平均よりも常に4、5点上回っており、そして非常に授業は分かりやすく、先生には話術があったので私達は楽しく化学を学ぶことができた。

## 自分で授業を経験して

大学4年の6月に母校で化学の教育実習を行ない、僅か2週間ではあったが1人でも多くの後輩諸君に化学を好きになって貰えればと思い、高校時代の化学の授業を思い出し私なりに努力した。3クラスに同じ内容の授業を行なったが、3クラスすべてに対し毎時間気合いを入れて授業をすることは極めて難しく、多くの高校生に化学を好きにさせ、熱心に気合いの入った授業をされた加藤先生に改めて感謝した次第である。

(所属：東京大学大学院理学系研究科化学専攻)

(© 1991 The Chemical Society of Japan)